

## 『西廂記』研究の回顧と展望（付：主要論著目録）

黄, 冬柏  
九州大学：非常勤講師

<https://doi.org/10.15017/9625>

---

出版情報：中国文学論集. 30, pp.84-104, 2001-12-25. 九州大学中国文学会  
バージョン：  
権利関係：

# 『西廂記』研究の回顧と展望

(付…主要論著目録)

黄 冬 柏

元の雜劇『西廂記』は、中国古典戯曲の傑作として、長い間人々を魅了し続けてきた。その『西廂記』研究も、すでに長い歴史があり、「紅学」（長編小説『紅樓夢』研究）と並んで、「西学」とも呼ばれている。蔣星煜氏が「西学」在搖籃中叫嚷」の中で、

作爲一門科學、「西學」不如「紅學」那樣成熟、甚至人們也許根本不承認。但是、它已經出生、並在搖籃中叫嚷了、我們不能充耳不聞。這是客觀存在。

一つの科学として、「西学」は「紅学」ほど成熟していないし、そもそも、もしかしたら人々に承認されていないかもしれない。しかし、「西学」はすでに誕生し、しかもゆりかごの中で叫んでいて、我々が耳をふさいで聞かないというわけにはいかない。これは客観的に存在するのである。（『上海戯劇』、一九八七年第六期）

と指摘するように、『西廂記』研究は、中国文学における最も重要な研究テーマの一つとして認識されつつある。そこで本稿では、今日までの『西廂記』研究の主な成果を振り返りながら、残された問題点や今後の研究の方向性などについて検討してみたい。

## 一、『西廂記』研究の回顧

『西廂記』が世に問われてから今日までおよそ七百年の間、主に作者・版本・主題・表現などの問題をめぐって

数多くの考察がなされ、かなり大きな成果が挙げられている。その研究の状況を概観してみれば、以下の通りである。

### (一) 作者について

明清以来、『西廂記』の作者については、様々に論じられてきた。その中で主たるものは、概ね次の四説、すなわち①王實甫作説 ②關漢卿作説 ③王作關統説 ④關作王統説である。

元・鍾嗣成の『録鬼簿』や、明・朱權の『太和正音譜』などの記載に拠れば、『西廂記』の作者は王實甫とされる。従って、「王實甫作説」は最も古く且つ確実な典拠を有するものとして、長く世に信じられてきたが、時代の推移に伴って、その他の三説が相次いで現れた。特に明の嘉靖（一五二二～一五六六）頃に出現した「王作關統説」（『西廂記』第一本より第四本に至る十六折が王實甫の筆で、第五本の四折は關漢卿の作だとする説）は、当時の文壇の盟主であった王世貞（一五二六～一五九〇）らの誤信と宣伝によって、大いに盛行した。近代に至って、著名な学者である王國維・吳梅・王季烈・劉世珩・魯迅らも、総じてこの説に賛同している。

ところが、一九四四年、王季思氏は「『西廂記』作者考」（『國文月刊』二十八・二十九・三十合刊）という論考を発表した。氏は王實甫と關漢卿とがそれぞれ活躍していた時代や、『西廂記』の風格および構造といった角度から総合的に分析した上で、『西廂記』は王實甫一人によって作られたものだという結論を出したのである。それ以後、作者に関する議論は今日まで続いている。例えば、陳中凡氏の衆人合作説（『關於西廂記雜劇的創作時代及其作者』、『江海學刊』一九六〇年第二期）や、吳金夫氏（『西廂記』應爲關漢卿所作）、『西北大學學報』一九八五年第四期）と陳紹華氏（關漢卿也創作過一本『西廂記』、『揚州師院學報』一九九二年第一期）の關漢卿作説、および蔣星煜氏（『西廂記』作者考）、『河北師院學報』一九八八年第一期）と蔡運長氏（『西廂記』第五本不是王實甫所作）、『戲曲藝術』一九八八年第四期）の王作關統説、などの考察が議論を呼んでいたが、張人和氏（『西廂記』論証、東北師範大學出版社、一九九五年）などの多くの研究家は「王實甫作説」に傾いている。ちなみに田中謙二氏も、音韻の分析というユニークな角度から、「王作關統説」を否定し、『西廂記』の五本二十一折は全て王實甫の手によるものだと証明している（『關於「王作關統説」、寒聲等編『西廂記新論』所収、中國戲劇出版社、一九九二年）。

### 『西廂記』研究の回顧と展望

## (2) 版本について

中国古典戯曲作品の中で、『西廂記』の版本は最も多く見られるものである。今日知るところによれば、明代においては六十余种の刊本が上梓され、清代の刊本も七十種あまりに昇り、さらに現在までに約五十種の校注本も出版されている。例えば、明の萬曆八年（一五八〇）に刊行された徐士範の『重刻元本題評音釋西廂記』や、萬曆四十二年（一六一四）に上梓された王驥徳の『新校注古本西廂記』、また天啓間（一六二一—一六二七）の凌濛初の『西廂記』、清の順治十三年（一六五六）の金聖歎の『第六才子書西廂記』などは、その中でも大きな影響力を持った版本である。特に、『第六才子書西廂記』は世に出て以後、その読みやすさと批評の奇警さとが相俟って、ほかの版本を圧倒し、一世を風靡して後世にも多大な影響を及ぼした。そして、清末民初に至ると劉世珩の編纂による『暖紅室彙刻傳劇』が刊行され、その中に収められた凌濛初の『西廂記』が次から次へと翻刻されて、『西廂記』の通行本として大いに流行した。それ以降出版された王季思氏の『集評校注西廂記』（一九四九年、上海開明書店）や、吳曉鈴氏の『西廂記』（一九五四年、作家出版社）などは、みなこの凌濛初の『西廂記』を底本として校注されたものである。王季思校注本は、詳細な注解と広範にわたる用例を備え、しかも何回かの修訂を経て重刷されたことで、現在最も重用される版本となった。

その一方で、『西廂記』の版本に関する研究も盛んに行われている。一九三三年に鄭振鐸は『西廂記』の本来面目は怎樣的（『清華週刊』三十七卷九—十）を発表し、『西廂記』の体例と版本について初步的な考証を施した。その後、田中謙二氏は相次いで『西廂記』版本の研究（『ピブリア』第一輯、一九四九年）、『西廂記』諸本の信憑性（『日本中國學會報』第二集、一九五一年）を発表し、現存する諸版本を厳密に校勘した上で、それぞれの評価を定めた。一九七〇年には、伝田章氏が明代に刊行された『西廂記』諸本の伝存状況を丹念に調査した労作『明刊元雜劇西廂記目錄』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター刊行委員会）を発表した。この目錄は以後の『西廂記』版本研究に対して多大な便宜を与えている。またその後出版された蔣星煜氏の『明刊本西廂記研究』（中國戲劇出版社、一九八二年）は、それまでの『西廂記』版本研究の集大成ともいえる最も系統的な論著である。八十年代以後は、蔣星煜、張人和らの研究者が、版本に関する一連の論文（付…主要論著目錄参照）を発表し、この分野の研究をさ

らに推し進めている。

### (3) 主題について

男女の恋愛・婚姻の自由を提唱する『西廂記』は、明代以来、「伝奇の冠」（明・胡應麟『少室山房筆叢』卷四十一「莊嶽叢談」）、あるいは「天下の至文」（明・李贽『焚書』卷三「董心説」）といった評価を与えられると同時に、「誨淫の書」との汚名も着せられ、特に清代に入ると時折禁書のリストに載せられて弾圧を被った（王利器輯録『元明清三代禁毀小説戲曲史料』、上海古籍出版社、一九八一年、参照）。この「淫書説」に対して最初に強く反駁したのが金聖歎（二六〇八―一六六一）である。彼は「讀第六才子書西廂記法」の中で、猛烈に「淫書説」を批判している。

『西廂記』斷斷不是淫書、斷斷是妙文。…文者見之謂之文、淫者見之謂之淫耳。

『西廂記』は決して淫書ではなく、まぎれもなく妙文である。…文雅な者がこの作を読めば文雅だと言うし、猥褻な者がこの作を読めば猥褻だと言うだけのことである。  
〔讀第六才子書西廂記法〕二

すなわち、猥褻なのは『西廂記』そのものではなく、『西廂記』が「淫書」だと非難した封建道学家たちこそそうなのである。

また、「五四運動」以後、郭沫若は『西廂』藝術上之批判與其作者之性格」の中で次のように指摘している。

『西廂記』是超時空的藝術品、有永恒而普遍的生命。『西廂記』是有生命的人性戰勝了無生命的禮教的凱旋歌、紀念塔。

『西廂記』は時空を超越する芸術品であり、恒久的かつ普遍的な生命がある。『西廂記』は生命のある人性が生み出さない礼教に打ち勝った凱旋歌であり、記念塔である。  
〔文藝論集〕、一九二二年五月）

この論断は、明代以後続いていた『西廂記』イコール「誨淫」という汚名を打破するとともに、『西廂記』の主題は封建礼教への反抗であるという解釈の端緒となった。その後、劉修業氏の「讀『西廂記』後」（『讀書月刊』第二卷第六・七号、一九三三年三・四月）、徐朔方氏の「論『西廂記』」（『光明日報』一九五四年五月十日）、王季思氏の「西廂記」敍説」（『人民文學』一九五五年九月）、蘇興氏の「王實甫雜劇『西廂記』反封建主題的發展和深化」（『社會科學

戦綫』一九八〇年第一期)、郎淨氏の『西廂記』與中國傳統的愛情觀』(『名作欣賞』二〇〇一年第二期)などの論文が次々に発表されたが、これらはいずれも、『西廂記』は封建礼教への反抗をテーマとする作品であるとし、男女の恋愛・婚姻の自由を提唱し、さらに「願普天下有情的都成了眷屬」という理想を打ち出したものである。「淫書説」を消滅させ、反封建の主題を確立したことは、「五四運動」以来の『西廂記』研究の顕著な特徴であり、大きな成果であるといえよう。

#### (4) 人物像について

人物像の描写は、詩文にはあまり見られない、戯曲小説などの叙事類型の文学作品特有の基本的な要素である。中国古典戯曲を批評する上で、初めて人物の性格と描写について分析したのが金聖歎である。彼は「讀第六才子書西廂記法」第四十七則から第五十六則にかけて、人物像を描き出すという点に着目し、特に『西廂記』の作者が工夫を凝らして三人の人物像を描いたと次のように述べている。

『西廂記』止寫得三個人…一個是雙文、一個是張生、一個是紅娘。其餘如夫人、如法本、…俱是寫三個人時所突然應用之家伙耳。

『西廂記』はただ三人を描いている。一人は雙文(即ち鶯鶯)であり、一人は張生であり、一人は紅娘である。そのほかの人、例えば、夫人・法本などは、…みなすべて三人を描くために不意に使われる道具であるのみである。  
(『讀第六才子書西廂記法』四十七)

そしてこの三人の中でも扱いの軽重に差があり、張生および紅娘の描写は、専ら主人公鶯鶯のイメージを際立たせるためのものであるとも指摘している。一方、同じく清の著名な戯曲家である李漁(一六一一〜一六八〇)は、

一部『西廂』、止爲張生一人。

『西廂記』は、ただ張生一人のためのものである。

という。また、槃過碩人の「玩西廂記評」(『中國古典戯曲序跋彙編』二所収)は、

看『西廂』者、人但知觀生・鶯、而不知觀紅娘。

(『閑情偶寄』卷一「立主腦」)

『西廂記』を見る者は、ただ張生と鶯鶯を見ることのみ知っていて、紅娘を見ることを知らない。とあり、『西廂記』を觀賞する時に、小間使いの紅娘という脇役が全劇の中で果たした役割を見逃してはいけなと指摘する。

二十世紀に入ると、西洋の文芸理論と中国伝統の文学批評とが結合し、新たな研究方法が生み出されることとなった。一九三二年に北京樸社出版部から出版された『插图本中國文學史』の第四十六章「雜劇的鼎盛」では、鄭振鐸が張生と鶯鶯との恋愛過程における心理描写についての確かかつ具体的な分析を施している。また、中国と外国の文学を比較研究することも、この時期の文学研究の注目すべき特徴の一つである。一九三五年の『光華半月刊』には堯子と署名する「讀『西廂記』與『Romeo and Juliet』——中西戲劇基本觀念之不同」(第四卷第一期、一九三五年十月)と「讀『西廂記』與『Romeo and Juliet』——中西作者描寫人物之不同」(第四卷第三期、一九三五年十一月)という論文が発表された。これらは比較文学の観点から『西廂記』を研究した論文の嚆矢と言えるが、その中で、作者は『西廂記』と『ロミオとジュリエット』という二つの作品の人物およびその描写手法を具体的に比較・分析した上で、その相違点を指摘している。

一方、田中謙二氏は「雜劇『西廂記』における人物性格の強調」(『東方学』第二十二輯、一九六一年七月)の中で、登場人物の性格の強調が『西廂記』の特徴の一つであること、また『西廂記』の眞の主人公は紅娘でなければならぬことを指摘し、『西廂記』の人物像および主題を理解する上で、新しいヒントを与えてくれたのである。

最近二十年間の研究では、「西廂三幻同名人物性格辨」(段啓明、『西南師院學報』一九八二年第二期)、「從崔鶯鶯・杜麗娘到林黛玉」(黃進、『汕頭大學學報』一九八六年第二期)、「從董・王西廂的比較中看張生的形象塑造」(蔡連長、『戲曲藝術』一九九〇年第一期)、「給普天下有情人以巨大的鼓舞力量——談西廂記中崔鶯鶯的形象」(張元國、『江漢論壇』一九九〇年第十一期)などの『西廂記』人物論に関する論文が目を引く。これらの論考の特徴と言えば、やはり『西廂記』と『鶯鶯伝』や『西廂記諸宮調』、あるいは『牡丹亭』や『紅樓夢』などの作品とを比較することを通して、男女の恋愛を題材とする戯曲と小説の名作の中に、人物性格、特に女主人公の性格の成長と発展の軌跡を探ることであろう。

(5) 言語表現について

『西廂記』が読者あるいは観客に賞賛されるのは、華麗な曲辞と機知に富んだ賓白、巧みな描写およびユーモラスな表現がその大きな原因であると言うことができる。歴代の研究者もまずこの点に注目して評価している。例えば、明の文人は『西廂記』およびその作者王實甫について次のように絶賛している。

王實甫之詞、如花間美人。

王實甫の詞は、花間の美人の如し。

作詞章、風韻美、…『西廂記』天下奪魁。

詞章を作り、風韻美しく、…『西廂記』は天下の魁を奪ふ。

(朱權『太和正音譜』)

王實甫才情富麗、真辭家之雄。

王實甫は才情富麗にして、真に辭家の雄なり。

實甫斟酌才情、緣飾藻艷、極其於淺深濃淡之間、令前無作者、後掩來哲、遂擅千古絶調。

實甫は才情を斟酌し、飾を縁し艷を藻うかきて、其れを淺深濃淡の間に極め、前に作者無く、後に來哲を掩おほはしめ、

遂に千古の絶調を擅す。

(王驥徳『新校注古本西廂記・自序』、『中國古典戲曲序跋彙編』二所収)

…語其神、則字字當行、言言本色、可謂南北之冠。

…其の神を語れば、則ち字字當行、言言本色、南北の冠と謂うべし。

(徐復祚『曲論』)

以上の明人の評価から、『西廂記』の言語風格および戯曲史上における位置づけを窺うことができる。元雜劇の言語風格は多様であるが、概ね口語(俗語)を基調とする本色派と文言を基調とする文采派に分類され、『西廂記』は華麗な詞藻によって、文采派の代表作と言われてきた。しかし、近代に至って、王國維・吳梅・王季烈らの学者が、『西廂記』の華麗な曲辞を肯定すると同時に、賓白の「当行本色」と方言俗語の運用を最も重要視すべきだと指摘した。王國維は『宋元戲曲考』(一九二二年)第十二章「元劇之文章」の中で、「元曲は中国の最も自然な文学である」と言い、具体的に『西廂記』第四本第四折の【雁兒落】【得勝令】二曲の曲辞を例として、俗語の襯字を



以て曲の間に挿入するのが前例のないことだったと述べている。また、呉梅の『顧曲塵談』（一九一四年）・『中國戲曲概論』（一九二六年）および王季烈の『螭廬曲談』（一九二三年）には、『西廂記』が雅語美辞を用いるだけではなく、口語や俗語なども多用していると書かれている。王國維らは元雜劇の通俗自然な言葉肯定するという前提のもとに、見逃しやすい『西廂記』曲辞賓白の「本色」表現をあえて強調したのである。

一方、宮原民平も「西廂記解題」（『國譯西廂記』、國民文庫刊行會、一九二二年）の中で、「西廂記の妙は、主として其の文に在り、文の妙はまた俗語の使用に在り」と記しており、まさに王國維らの述べるところと通じるものがある。

『西廂記』の表現において、自然の景色と主人公の気持ちを巧みに融合して、詩的な境地に達することや、古典詩文の名句をうまく取り込んで、文学素養を持つ主人公の優雅な風格を相応しく伝えることなどの特徴は、「西廂記曲辞中の詩詞典故的運用」（許榮生、『青海師專學報』、一九八三年）・「西廂記的語言藝術」（吳功正、『新劇作』一九八四年第二期）などの論文に具体的に考察されている。また、章培恒・駱玉明両氏の主編した『中國文學史』の中には、『西廂記』の言語特徴について次のように書かれている。

（『西廂記』）劇中の賓白、基本上都是鮮活的口語、能够傳達各個人物的性格和生動的神態。…而劇中的曲詞、則和關漢卿雜劇以本色爲主、朴素流暢不同、它明顯地偏向於華美、形成一種詩劇的風格。

（『西廂記』）劇中の賓白は、ほとんどが活き活きとした口語であり、各個人物の性格および活き活きとした表情や態度を伝えることができている。…しかも劇中の曲辞は、關漢卿の雜劇のような本色を主とする、素朴流暢さとは異なつて、明らかに華美に傾いて、一種の詩劇の風格になつている。

（『中國文學史』下卷第四十三頁、復旦大學出版社、一九九六年）

『西廂記』の言語表現は、多くの研究者が指摘するように、まさに「文采」と「本色」を二つながら有し、曲辞と賓白とをともに生かし、形神を兼ね備えていたがゆえに、雅俗ともに賞賛されたのである。

『西廂記』研究において、その特異な体制（五本二十一折）や、その難解な様式（悲劇か・喜劇か・それとも悲喜劇か）、

また『西廂記』と『董解元西廂記』との比較研究、および『西廂記』の現代京劇と地方劇の改編などの問題も、多くの研究者によって検討されている。

(6) 日本における『西廂記』の研究について

日本における『西廂記』研究の状況については、井上泰山氏がすでに仔細な調査をしている（井上泰山氏「日本における『西廂記』研究」、『中国俗文学研究』第八号、一九九〇年十二月）。そこで、本稿では氏の調査結果を踏まえ、新しい情報を加えて、その主な研究成果を次のようにまとめてみたい。

一九二八年に出版された久保得二の『支那戯曲研究』（弘道館）は、おそらく日本における本格的な『西廂記』研究の嚆矢であろう。その「前篇」の内容は、『西廂記』の先駆、『西廂記』の内容・作者・体制・人物並びにその描写・詞藻・流行・諸本、金聖歎本の価値、『西廂記』統撰の諸劇、など多岐にわたり、それまでの『西廂記』研究の水準の高さを窺わせる。そして青木正兒の『支那近世戯曲史』（弘文堂、一九二八年）と吉川幸次郎の『元雜劇研究』（岩波書店、一九四八年）とは日本における中国戯曲研究の双璧であり、『西廂記』研究にも欠かすことのできない論考である。

また、一九三九年四月、京都の東方文化研究所（現在の京都大学人文科学研究所）において「元曲研究班」が組織され、青木正兒と吉川幸次郎を中心として解説研究が進められたことは、以後の『西廂記』研究のみならず、元雜劇研究全体を押し進める大きな原動力となった。その一員であった田中謙二氏は、すでに紹介した『西廂記』の作者・版本・人物性格に関する論考のほかにも、故事演変および『董解元西廂記』などについて多角的な研究を行った。『董西廂』に見える俗語の助字（『東方学報・京都』第十八册、一九五〇年）、「文学としての『董西廂』（上・下）」（『中国文学報』第一册・第二册、一九五四年・一九五五年）、および「雜劇『西廂記』の南戲化——西廂物語演變のゆくえ」（『東方学報・京都』第三十六册、一九六四年）などの一連の論文は、氏の『董西廂』と『南西廂』および『西廂記』演變についての詳密な考察を展開したものである。さらに氏はこれまでの研究成果を踏まえた上で、ついに『西廂記』を現代語で翻訳し、解説を加えて世に問うている（『中国古典文学大系』五二・戯曲集上巻・西廂記、平凡社、一九七

〇年)。

日本における『西廂記』の研究者としては、塩谷温を忘れることはできない。氏は一九一九年に早くも『支那文学概論講話』を著し、『西廂記』の冒頭部分を訳している。以後も引き続いて同書の和訳を試み、五七調を基調とする歌訳体の翻訳を完成するに至った。一九五八年に天理養徳社より出版された『歌訳西廂記』には、「解説」が付され、『西廂記』の源流や版本についての基礎的な説明が加えられており、『西廂記』研究史を考える上で見逃せない著作である。

上述した如く、『西廂記』には数多くの版本が現存する。日本においても、幾つかの貴重な版本が収蔵されている。例えば、内閣文庫に収める明の萬曆年間の熊龍峰刊『重刻元本題評音釋西廂記』、陳邦泰刊『重校北西廂記』、および天理大学図書館に収める游敬泉刊『李卓吾批評合像北西廂記』などがある。『西廂記』の刊本に関する研究は、先に触れた田中謙二・伝田章両氏以外の研究者によってもなされており、波多野太郎氏の「明何璧校『北西廂記』提要——附張心逸彙校」『書報』四十四、一九六一年十二月)、内田泉之助氏の「詞壇清玩西廂記——鑿邁碩人改定本について」(『二松学舎大学論集』一九六三年三月)などは、版本研究をさらに前進させる役割を果たしている。このほか、田仲一成氏は、「明末文人の戯曲観——『三先生合評元本北西廂』における「湯若士」評の方向——」(『東洋文化研究所紀要』第九十七冊、一九八五年三月)と「明初以来、『西廂記』の流伝と分化——碧筠齋本を起点としての一考察——」(『伊藤漱平教授退官記念中国学論集』所収、汲古書院、一九八六年)という二篇の論文を発表している。これらの論文は、湯頭祖批評についての考察や、碧筠齋本以来の版本の流伝と分化に関する考証などを行い、中でも、従来の版本研究に欠けていた時代背景との絡みを追求している点で特に注目すべきであろう。

最後に、近年の研究成果について見ておきたい。九十年代に入って、『西廂記』に関する論考は、管見の及ぶ限りにおいて、『西廂記』または物語の謎解き」(廣瀬玲子、『東洋文化研究所紀要』第百二十冊、一九九三年二月)、「説唱文学としての『董西廂』」(輪田直子、『集刊東洋学』第七十六号、一九九六年十一月)、『董解元西廂記諸宮調』研究」(金文京ほか、汲古書院、一九九八年)および拙論「西廂故事の戯曲化について」(『中国文学論集』第二十五号、一九九六年十二月)、「明清時代における『西廂記』の上演とその脚本」(『九州中国学会報』第三十七卷、一九九九年五月)、「西廂

#### 『西廂記』研究の回顧と展望

故事の流傳と『傳奇』（『日本中國學會報』第五十集、一九九八年十月）、「金聖歎とその『西廂記』批評」（『文学研究』第九十七輯、二〇〇〇年三月）などがある。そのうち、最も評価が高く影響が大きかったのは、『董解元西廂記諸宮調』研究』であろう。かつて田中謙二氏のもとで『董西廂』あるいは元雜劇についての教えを受けた六名の筆者は、『解説』・「本文」・「曲譜」を分担して共同研究を行い、『西廂記諸宮調』の形式と内容を具体的に分析し、本文の校訂と注釈を施した上で日本語に翻訳している。本書はこれまでの研究成果を踏まえつつ、新しい見解をも加えた『西廂記諸宮調』研究の集大成であり、以後の『西廂記』研究へ多大な便宜を与えることとなろう。

## 二、『西廂記』研究の展望

以上、今日までの『西廂記』研究を極めて大雑把ながら振り返ってみた。これまで多くの研究者の努力によって、『西廂記』の作者考証、版本流變、内容鑑賞、人物分析などを中心とする研究が大きな成果を挙げたことは明らかであろう。しかし、従来の『西廂記』研究は、主に文献学の考証と文芸学の分析から進められ、とりわけ『西廂記』とその作者といった内容を中心として検討されてきたが、『西廂記』の源流と變遷および中国文学史への影響については、未だ十分に究明されていない。また、『西廂記』についても、もっぱら文学作品としてのテキストへの注目であり、演劇の名品として生きた社会の中で演じられた実態とその脚本についての論考は見当たらない。さらに『西廂記』以外にも、『西廂記』變遷の流れの中で、細かく検討すべき作品は少なくないが、それらの作品は従来あまり顧みられなかったように思われる。従って、以下では、こういった問題点を踏まえ、今後の『西廂記』研究とその方向性について展望してみたい。

### （一）『西廂記』評論などの考察

明清の戯曲評論および各版本の序跋文の中には、『西廂記』についてその曲辞を賞賛する朱權・王世貞、全体の魅力を推賞する王驥徳・李漁、総合的に高評を下す李贄・金聖歎、などの数多くの透徹した見解が含まれている。

これらの見解を考察すれば、その時々に出現した道徳指向、価値観念、審美情趣、および受容層の嗜好などを見出すことができるはずである。

## (2) 新しい研究課題の開拓

版本考証、辞藻鑑賞、人物分析などについてもさらに深く研究する必要があるが、新しいテーマをも探究しなければならぬ。例えば、従来あまり取り組まれなかった作品に対して詳細な考察をすることによって、その特徴や『西廂記』変遷の中における位置付けなどを確認すること、またテキストや語彙といった従来の文学史的研究以外にも、『西廂記』を社会史的、文化史的な視点から捉え直すこと、さらに現代文芸理論と比較文学の斬新な研究方法で『西廂記』の諸問題を再検討することなどが求められよう。

## (3) 『西廂記』改編本などの整理

元雜劇『西廂記』が世に出たあと、単にそれが重版刊行され続けたにとどまらず、様々な改作や統編が出版された。明清だけでも、三十三種の改編本と統編本が記録されているが、そのうち、十三種が現存する。一方、民間においても、『西廂記』に関する民歌・俗曲が流行した。ただし、傳情華編の『西廂記説唱集』（上海出版公司、一九五五年）に収録されるのは、残念ながらそのごく一部に過ぎない。こういった改編本と統編本および民歌・俗曲などは、さらに詳しい整理と深い研究を行う必要がある。また、これらの研究は、『西廂記』の現代劇（京劇と地方劇）を、どのように改編すれば、元雜劇の優れたところを失わずに、今日の観衆の嗜好に合わせられるのかについてのヒントを与えてくれることにもなるであろう。

## (4) 『西廂記』版本集成の編纂

『西廂記』の版本は、中国大陸と台湾、および日本など各地に散見する。各種の『西廂記』版本目録によれば、明刊本・清刊本・注釈本・改編本・翻訳本などを合わせて、三百種を超える版本が記録されている（寒聲『西廂記』

古今版本目録輯要』、『西廂記新論』所収、中國戲曲出版社、一九九二年)。中国大陸では、すでに『古本戲曲叢刊初集』(文學古籍刊行社、一九五四年)が刊行され、その中に『新刊奇妙全相註釋西廂記』(弘治本)、『元本題評音釋西廂記』(劉龍田本)、『張深之先生正北西廂秘本』を収録する。また『暖紅室彙刻西廂記』(江蘇人民出版社、一九六〇年)の中にも、明の閔齊俊刻本『董西廂』、凌濛初即空觀原刻本『西廂記』雜劇のほか、『鶯鶯伝』・『南西廂記』および校注釈義など、合わせて十三種が収められている。もし現存するすべての版本をとりまとめて刊行することができれば、以後の『西廂記』研究への大きな益となるに違いない。

『西廂記』研究を一つの科学性と系統性を持つ学問に築き上げるためには、学术界の交流と協力が不可欠である。一九八七年、『西廂記』研究組織である「西廂記研究会」が発足し、一九九〇年五月には『西廂記』故事の発生地——山西省永濟県普救寺で「西廂記研究会第一回国際學術シンポジウム」が開催された。こういった組織の設立と研究会の開催によって、『西廂記』研究はいっそう盛んになり、世界に広がっていった。時が流れれば流れるほど、古典名劇『西廂記』はますます人々を魅了し、また『西廂記』研究もますます盛んになっていくであろう。

付：『西廂記』研究主要論著目録

- 一、本目録には、現在（二〇〇一年九月）に至るまでに公刊された王實甫の『西廂記』研究に関する著書・主な論文を収録した。紙幅の都合上、『西廂記』注釈本および『西廂記諸宮調』『南西廂記』『第六才子書西廂記』『鶯鶯伝』などの関連作品は、収録の対象としなかった。また、『西廂記』の表記は、『』（書名符号）を省略した。
- 一、各項の記載順序は、題目・著者・出版社（著書の場合）・掲載誌（論文の場合）・出版年月である。雑誌の巻数や出版年月日については、以下の通りとした。
- 第五卷第三期 → 5-3    一九八五年第三期 → 1985-3  
 一九八五年五月 → 1985.5
- 一、本目録の作成に当たっては、「中国古代・近代文学研究」（中国人民大学書報資料中心）、「戯劇・戯曲研究」（同）、「東洋学文献類目」（京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター）、「西廂記」研究資料索引（賀新輝／朱捷、『西廂記鑑賞辞典』所収、中国婦女出版社、一九九〇年）、「日本における『西廂記』研究」（井上泰山、『中国俗文学研究』第八号、一九九〇年十二月）などを参考した。

『西廂記』研究の回顧と展望

一、【著書】

- 從鶯鶯傳到西廂記    王季思    上海古典文學出版社    1955  
 西廂記分析    周天    上海古典文學出版社    1956  
 西廂記簡說    霍松林    作家出版社    1967  
 明刊元雜劇西廂記目録    傅田章  
     東京大學東洋文化研究所東洋學文獻センター刊行委員會1970  
 王實甫和西廂記    潘兆明    中華書局    1980  
 西廂述評    霍松林    陝西人民出版社    1982  
 明刊本西廂記研究    蔣星煜    中國戲劇出版社    1982  
 西廂論稿    段啓明    四川人民出版社    1982  
 西廂記藝術談    吳國欽    廣東人民出版社    1983  
 西廂記罕見版本考    蔣星煜    東京不二出版株式会社    1984  
 西廂記淺說    張燕瑾    百花文藝出版社    1986  
 西廂記考證    蔣星煜    上海古籍出版社    1988  
 西廂記鑑賞辞典    賀新輝／朱捷編著    中国婦女出版社    1990  
 西廂記曲譜研究    謝朝鐘    九宮文化出版社    1990  
 西廂記新論    寒聲等編    中國戲劇出版社    1992  
 西廂之戀——才子佳人文學的典範    姚力藝    山西教育出版社    1994  
 西廂記論証    張人和    東北師範大學出版社    1995  
 花間美人西廂記    全秋菊／吳國欽    汕頭大學出版社    1997  
 西廂記的文獻學研究    蔣星煜    上海古籍出版社    1997  
 西廂記二論    林宗毅    文史哲出版社    1998  
 經典叢話西廂妙詞    趙山林    江西教育出版社    1999

二、【論文】

（一）總論

- 王實甫西廂記    吳梅    小說林 9    1907  
 西廂記考    節山學人    東亜研究 2-11    1912

中國文學論集 第三十号

- 讀西廂記偶筆 楊瀚 中華小說界2-7 1915.7  
綠陰老話(上)西廂記 塩谷温 帝國文學24-7 1918  
西廂記雜考 久保天隨 帝國文學24-10 1918  
西廂藝術上之批判與其作者之性格 郭沫若 文藝論集1921  
西廂記底演變 傅永孝 學風2-10 1932.12  
讀西廂記後 劉修業 讀書月刊2-6,2-7 1933.3,1933.4  
讀西廂記的現實性 程以中 大公報1952.8.2  
讀西廂記隨筆 陳凡 劇本1954-1  
論西廂記 徐朔方 光明日報1954.5.10  
西廂記校說 王季思 人民文學1954-9  
論西廂記 宋之的 人民文學1955-10  
關於西廂記和有關西廂記的評論 劉秉義 山西師院學報1957-1  
西廂記的題材、人物及其他 陳美林 南京師院學報1978-3  
從鳳求凰到西廂記——兼談如何評價古典文學的愛情作品 王季思 文學遺產1980-1  
西廂記發覆 董每戡 中山大學學報1980-2  
舞臺上的喜劇、現實生活中的悲劇——讀西廂記筆記三篇 方平 文藝叢刊12 1981.1  
從西廂記談大團圓 劉蔭柏 復旦學報1981-2  
情真語透——讀西廂雜感 祝肇年 長江戲劇1981-3  
欣賞西廂記 吳國欽 南國戲劇1981-6  
西廂記三題 古今 聊城師院學報1982-2  
化腐朽為神奇——淺談西廂記的推陳出新 姚奇 戲劇叢刊1982.3  
西廂故事的來龍去脈 戚宜君 中華文藝24-1 1982.9  
漫談西廂記的讀法 陳多 黑龍江戲劇 1983-2  
曹雪芹用小說形式寫的西廂記批評史——紅樓夢中不可或缺的道具 蔣星煜 揚州師院學報1983-3  
王實甫和愛情喜劇西廂記 霍松林 陝西教育1983-5

- 西廂記論叢 張人和 中山大學學報1983-7  
西廂記二題 陳睿平 蘭州大學學報1984-3  
西廂記研究綜述 朱恒夫 文學研究動態1984-9  
明人批判西廂記述評 壓書儀 中國古典文學論叢 1984.12  
試論王實甫西廂記的獨特地位 陳少欽 集美師專學報1986-1  
「西學」在播藍中叫嚷 蔣星煜 上海戲劇1987-6  
讀西廂札記 孫學明 杭州師範學院學報1988-1  
近年來西廂記研究綜述 周續燾 文史知識1988-2  
論西廂記系統的文化內涵 賀光速 湖北大學學報1989-2  
西廂記的歷史光波 王季思 文藝研究1989-4  
「太平多暇」與董·王西廂的產生 陳美林 河北師院學報1990-2  
西廂記七事 吳曉鈴 藝術界1990-11  
西廂記または物語の謎解き 廣瀬玲子 東洋文化研究所紀要120 1993.2  
近百年西廂記研究 張人和 社會科學戰綫1996-3  
談西廂記的成書過程兼及文學史上的借鑑現象 劉銀光 臨沂師專學報19-1 1997.2  
明清西廂記批評對戲曲文化的貢獻 邱建新 江淮論壇1998-1  
西廂故事的流傳與「傳奇」 黃冬柏 日本中國學會報50 1998.10  
王世貞述評西廂記之價值 張世宏 文獻1999-1
- (2) 作者
- 西廂記第五本關續說辨妄 馬玉銘 文學2-6 1934.6  
西廂記作者考 王季思 國文月刊28,29,30 1944  
王實甫生平的探索——王實甫退隱散套跋 馮沅君 文學研究1957-7  
西廂記雜劇作者質疑 周妙中 文學遺產增刊5 1957.12  
再論關漢卿——關漢卿與西廂記問題 楊海 北京大學學報1958.3  
關於西廂記雜劇的創作時代及其作者 陳中凡 江海學刊1960-2  
關於西廂記雜劇的作者問題——對楊晦同志「關著王續」說的商榷



陳中凡 光明日報1961.1.29

關於西廂記的作者問題

王季思 文匯報1961.3.29

再談西廂記的作者問題

陳中凡 光明日報1961.4.30

關於西廂記作者問題的進一步探討

王季思 光明日報1961.7.9

關於西廂記作者問題的再進一步探討

陳中凡 光明日報1961.10.22

關漢卿作或續作西廂說溯源

譚正璧 學術月刊1962.4

王實甫年代新探

戴不凡 文史1965.4

西廂記作者新考

鄭騫 幼獅學誌1-4 1973.12

雜劇西廂記的作者——王實甫考

內田隆之 日本文學論叢34 1974

王實甫和他的西廂記

伍悅 戲劇創作1980-2

王實甫作西廂記的年代

董每戡 戲劇論叢1981-2

從明刊本西廂記考證其原作者

蔣星煜 戲曲研究5 1982.4

西廂記第五本非王實甫所作

藍凡 復旦學報1983.4

西廂記作者問題辨正

趙景深 中國戲曲初考 中州書畫社 1983

西廂記作者關王二說辨析

董如龍 學術季刊1985.2

西廂記作者問題的商榷

錢南揚 南京大學學報1985.4

西廂記應爲關漢卿所作

吳金夫 西北大學學報1985.4

西廂記王作關續說辨偽

胡緒偉 荊州師專學報1986.4

論西廂記第五本

林文山 福建論壇1986.6

也談西廂記第五本

張守基 濟南師專學報1987-1

西廂記作者考——「西廂記作者關王二說辨析」之再辨析

蔣星煜 河北師院學報1988-1

西廂記第五本不是王實甫所作

蔡運長 戲曲藝術1988-4

西廂記作者新探

陳慶煌 漢學研究1-1 1989.6

元曲四大家與王實甫

蔣星煜 戲劇藝術1990-2

王實甫生平·作品推考

劉蔭柏 戲曲研究33 1990.6

關於王實甫

李毓珍 山西大學學報1991-2

關漢卿也創作過一本西廂記——兼論西廂記之王作關續說

陳紹華 揚州師院學報1992-1

關於王作關續說

田中謙二 西廂記新論所収 中國戲劇出版社 1992

從關漢卿現存作品看西廂記作者問題

徐子方 江海學刊1995-5

### (3) 版本

西廂記的本來面目是怎樣的

西論 清華週刊37卷9-10 1932.5

西廂記版本的研究

田中謙二 ビブリオ1 1949

西廂記諸本の信憑性

田中謙二 日本中國學會報2 1951

評新版西廂記的版本和注釋

霍松林 文學遺產增刊1 1955

新發現的明何璧校本西廂記

張心逸 江海學刊1961-11

明何璧校本西廂記提要——增張心逸彙校

波多野太郎 書報4 1961.12

明何璧校本西廂記提要

增張心逸彙校補遺

波多野太郎 橫濱市立大學論叢13-2、13-3 1962.3

萬曆版西廂記の系統とその性格

傳田章 東方學31 1965

詞壇清玩西廂記——鑿過碩人改定本について

內田泉之助 二松學舎大學論集1969.3

遠山荷塘の諺解校注古本西廂記

傳田章

東京大學教養學部外國語科研究紀要25-4 1977

明刊本西廂記的古本·元本問題——兼談新發現的徐士範刊本

蔣星煜 學術月刊1979.3

何璧與明何璧校本西廂記

蔣星煜 廈門大學學報1979-4

評徐士範本西廂記——明版各本西廂記的一個比較研究

蔣星煜 中華文史論叢1980-1

顧玄緯本西廂記與李棟本西廂記

蔣星煜 上海師院學報1980-1

明刊六種徐文長本西廂記的真偽問題

蔣星煜 杭州大學學報1980-2

凌刻西廂記與閔刻西廂記

蔣星煜 揚州師院學報1980-4

徐士範刊本西廂記對明代題評音釋本的影響

蔣星煜 南京師院學報1980-4

張深之本西廂記與徐文長本·王驥德本的血緣關係

## 『西廂記』研究の回顧と展望

中国文学論集 第三十号

- 王實甫以外二十七家西廂考 譚正璧 文獻7 1981.1  
明代上饒余瀛東氏生平之探索及其校正本西廂記的來龍去脈 蔣星煜 江西師院學報1981-2  
徐奮鵬校刊的評注本西廂記和演出本西廂記 蔣星煜 紅樓夢學刊1981-3  
關於寶黛所讀的十六齣本西廂記 蔣星煜 文學遺產1981-3  
西廂記的外文譯本和滿蒙文譯本 王麗娜 徐州師院學報1981-4  
西廂記受南戲·傳奇影響之跡象 蔣星煜 戲曲研究5 1981  
李卓吾批本西廂記的特徵·真偽與影響 蔣星煜 社會科學戰綫1982-1  
西廂記稱崔氏春秋非自程巨源始 張人和 社會科學戰綫1982-1  
師儉堂刊湯顯祖本西廂記與李卓吾本的關係 蔣星煜 戲劇學習1982-1  
西廂記徐本·屠本評釋 蔣星煜 中華文史論叢1982-2  
西廂記的日文譯本 蔣星煜 文學遺產1982-3  
西廂記齣目演變簡化的過程 蔣星煜 戲曲藝術1983-2  
論朱素臣校訂本西廂記演劇 蔣星煜 文學遺產1983-4  
琵琶本西廂記考——對日本久保得二·傳田章二氏研究西廂記的一點補正 蔣星煜 學林漫錄1983-7  
清道光年間嶺南的北曲演唱本西廂記——吳蘭修桐華閣本西廂記論略 蔣星煜 戲劇藝術資料1983-9  
談新編校正西廂記殘葉的價值 周續賡 文學遺產1984-1  
元本出相北西廂記的王·李合評本與神田宮一郎藏本 蔣星煜 中華文史論叢1984-1  
汪廷訥校刻環翠堂樂府本西廂記 蔣星煜 藝譚1985-1  
弘治本西廂記刊於何年 王堅 社會科學戰綫1985-2  
徐士範本西廂記的齣目 張人和 社會科學戰綫1985-2  
西廂記版本二考 蔣星煜 揚州師院學報1985-3  
毛奇齡對西廂記本來面目的探索——毛西河論定西廂記所作校注的依據 蔣星煜 河北學刊1985-3
- 明末文人的戲曲觀——三先生合評元本北西廂における湯若士評の方向 田仲一成 東洋文化研究所紀要97 1985.3  
成化本西廂記殘葉的校勘意義 于德馨 四川大學學報叢刊27 1985.5  
明初以來、西廂記の流伝と分化——碧筠齋本を起点としての一考察—— 田仲一成 伊藤漱平教授退官記念中國學論集 汲古書院 1986  
屠赤水本王實甫西廂記について 傳田章 伊藤漱平教授退官記念中國學論集 汲古書院 1986  
田水月山房北西廂與重訂元本批點畫意北西廂之關係 張新建 文獻1986-2  
徐士範本西廂記並非孤本 張人和 文獻1986-4  
傳田章對西廂記版本學的貢獻——評明刊元雜劇西廂記目錄 蔣星煜 曲苑2 1986.5  
徐士範本西廂記的孤本·善本問題——兼答張人和同志 蔣星煜 中華戲曲2 1986-10  
西廂記的版本和體例 張人和 文史26 1986  
西廂記明清刊本目錄 王綱 西廂記學術討論會 北京師範學院 1987.10  
也談徐渭評本北西廂 王綱 文獻1988-3  
封岳研究西廂記的豐碩成果——含章館西廂記的評校 蔣星煜 上海師範大學學報1989-2  
評張人和集評校注西廂記 蔣星煜 戲劇藝術1989-2  
西廂記箋注解証本 傅曉航 戲曲研究5 1990.12  
明刊文秀堂本西廂記考 蔣星煜 學林漫錄3 1991.5  
中國版本學中的西廂記現象 蔣星煜 杭州師院學報1985-4  
西廂記的版本系統概觀 張人和 社會科學戰綫1997-3  
明刊本西廂記體制的演變軌跡 張人和／楊今才 東北師大學報1998-6  
論周憲王本西廂記之真偽 黃季鴻 社會科學戰綫2001-1

(4) 主題

關於西廂記愛情主題的探討 夏虹 黑龍江大學學報1979-4

王實甫雜劇西廂記反封建主題的發展和深化 蘇興 社會科學戰線1980-1  
西廂記的歷史意義及其時代局限 馬美信 邊塞1980-1  
創造性的改編——從鶯鶯傳到西廂記的情節典型化和主題提煉

寧宗一 古典文學論叢2 陝西人民出版社 1982  
論西廂記的宗教批判 朱彤 北方論叢1982-5

王實甫西廂記的愛情婚姻觀 徐煉 湘潭大學學報1987-3  
略論西廂記中兩種價值觀念的衝突 毛忠賢 宜春師專學報1987-3

元雜劇中反掠奪婚姻的思潮——兼及西廂記的寺警和爭艷 王毅 江漢論壇1988-7

王實甫雜劇中的倫理思想 莊關然 道德與文明1989-1  
願天下有情的都成了眷屬——讀王實甫西廂記的愛情描寫

西廂記對性禁區的衝激及其世界意義 蔣星煜 藝術界1991-4  
西廂記與中國傳統的愛情觀 郎淨 名作欣賞2001-2

#### (5) 人物像

試談鶯鶯在西廂記裡的地位 邵忻 文學遺產增刊7 1959.12

雜劇西廂記における人物性格の強調 田中謙二 東方學22 1961  
論崔鶯鶯 南薰 文學評論1964-4

西廂記的矛盾衝突與紅娘 蔣星煜 名作欣賞1980-1  
何來惹惹情牽——西廂記主人公登場淺析 郁華 戲劇界1980-2

離魂倩女假假真真——西廂記崔鶯鶯心理活動的描寫 雷生 江蘇戲劇1980-11  
雜劇西廂記的人物描寫 辛人 藝譯1980-3

論西廂記的人物 張人和 古典文學論叢2 齊魯書社 1981.9  
西廂三幻同名人物性格辨 段啓明 西南師院學報1982-2

恐俺小姐有許多假處——談西廂記中的鶯鶯的作假 傅治同 名作欣賞1982-2

人物心理描寫及其他——評西廂記 潘征起 戲劇叢刊1982-2

西廂記人物論 馬焯榮 藝譯1982-3  
通過甲的眼睛為乙畫像——讀西廂記一得 許來棠 河北戲劇1982-8

紅娘三題——讀書札記 陶士華 佳木斯師專學報1983-1  
談紅娘形象的複雜性 廖書儀 戲曲藝術1983.2

天下奪魁 貴在寫心——談西廂記人物心理描寫 岳少峰 教學與科研1984-2

佛門弟子的「破戒」——談西廂記中僧人的描寫 劉福善 寫作學習1984-2

論張生崔鶯鶯的愛情的思想基礎及其它 張傳良 常德師專學報1984-5  
紅娘如何成為千古不朽的藝術形象 陳新偉 鞍山師專學報1985-1

論鶯鶯「變卦」的情感依據 正如 華東師大學報1985-2  
試論紅娘形象的塑造和流變 何書置 零陵師專學報1985-2

論古代戲曲心理過程的描寫 周寅賓 文學遺產1985-3  
高歌卑賤者的勝利——西廂記拷紅賞析 王季思 文史知識1985-3

論老夫人 林文山 山西師大學報1985-4  
論張生 林文山 河北師院學報1986-1

論崔鶯鶯 林文山 汕頭大學學報1986-1  
狠毒的慈母——淺談西廂記的老夫人 李雲飛 呼蘭師專學報1986-1

筆底處處蕩心聲——談西廂記的人物心理描寫 宋文 遼寧大學學報1986-4  
從審美效果上寫美——略論王實甫描寫崔鶯鶯的美 袁啓明/張粵民 語文學習1986-4

試論鶯鶯的心理軌跡及其文化內涵 莊美之 名作欣賞1986-4  
張生性格特徵辨析 王安庭 山西師大學報1986-4

論紅娘 林文山 學術研究1986-6  
略論崔鶯鶯的性格結構 華耀祥 揚州教育學院學報1987-2

論知識素養在鶯鶯形象塑造中的作用 秦致成 安徽教育學院學報1987-3  
論琴童在西廂記中之地位 蔣星煜 河北學刊1988-5

紅娘鶯鶯及其它 姜超 語文學刊1988-6

#### 『西廂記』研究の回顧と展望

中國文學論集 第三十号

崔鶯鶯的愛情追求 廖書儀 古典文學知識1988-6

耐人尋味的不寫之寫——評西廂記第五本對鶯鶯形象的处理

王仁銘 江漢論壇1990-2

給普天下有情人以巨大的鼓舞力量——談西廂記中崔鶯鶯的形象

張元國 江漢論壇1990-11

紅娘的膨化·越位·回歸和變奏 蔣星煜 河北學刊1991-3

(6) 藝術特色

論西廂記的藝術特色 伍六及 北京大學學報1982-5

論西廂記的藝術特色 蕭善因 吉林大學學報1979-6

衝突·性格·情節——漫談西廂記的戲劇衝突

宋靖宗 延安大學學報1979-1

衝突·性格·情節——漫談西廂記的戲劇衝突(續)

宋靖宗 延安大學學報1980-1

張生爲什麼跳牆——西廂記賞析舉隅

黃天驥 南國戲劇1980-3

西廂記的結尾歪曲了歷史的真實嗎 王維國 河北大學學報1980-3

西廂記的喜劇特色 顏長河 戲曲研究 1980

西廂記的高潮悬念及動作 段啓明 西南師院學報1981-1

西廂記的諷刺藝術 周桂峰 淮陰師專學報1981-1

西廂記藝術談 吳國欽 戲劇藝術資料1981-5、1981-6

情境交輝——讀西廂記長亭隨感 祝肇年 陝西戲劇1981-7

小議西廂記長亭送別 張雲生 唐山師專學報1982-1

眼睛的妙用——讀西廂記隨筆 祝肇年 劇壇1982-1

化腐朽爲神奇——淺談西廂記的推陳出新 姚奇 戲劇叢刊1982-3

因人見境·因境見人——西廂記學習札記 萬鷹 河北戲劇1982-9

崔張結局辨 董上德 中山大學研究生學刊1983-1

西廂記戲劇性論 平海南 戲劇藝術1983-2

西廂記賴簡探微 王星琦/陸沈西 中山大學研究生學刊1983-3

西廂記喜劇特色淺探 周維培 藝壇1983-3

西廂記長亭送別時間糾謬一辨 卜健 戲劇學習1983-4

鶯鶯不曾賴簡 王星琦/陸沈西 藝壇1983-4

西廂記不是喜劇 方正耀 讀書1983-12

元人雜劇的喜劇風格 王星琦 南京師大學報1984-1

發微闡妙、淋漓盡致——析西廂記的贈物 姚奇 戲劇叢刊1984-1

淺談西廂記中簡簡·賴簡的原因 趙軍元 喀什師院學報1984-1

道是無情卻有情——試論西廂記的結尾 謝曉蘇 成都大學學報1984-2

西廂記情節節奏探微 魯恩宏 河南戲劇1984-2

西廂記·長亭送別時間無謬辨——與卜健同志商榷

花團錦簇、曲折多姿——賞析西廂記簡簡一場戲 祝爾康 戲劇學習1984-3

西廂記·長亭送別時間糾謬再辨——兼答祝爾康同志

拳聲繪色·狀物傳情——談西廂記的摹繪技巧 卜健 戲劇學習1984-4

戲劇情節的斷想——讀王實甫西廂記有感 周植榮 南國戲劇1984-5

西廂記的形成及其藝術特色 錢傳善 長江戲劇1984-5

一波三折、妙趣橫生——西廂記·簡簡賞析 劉維後 鞍山師專學報1985-2

西廂記的戲劇衝突 吳功正 新劇作1985-6

論西廂記的藝術特色 范文發 戲曲研究 1986-7

堂前巧辨的構思及西廂記的高潮問題 蔣星煜 藝術百家1987-2

簡簡·賴簡實質商兌 吳政 河北師專學報1987-4

淺談西廂記的結構藝術 紫栗 徽州師專學報1988-1

西廂記的藝術特色 齊森華 文科月刊1988-3

滿目淒淒皆秋色·怎當一腔離人情——兼及西廂記的寺警和爭鬪

西廂記的喜劇效果 蔣星煜 戲劇藝術1993-1

西廂記的喜劇效果 蔣星煜 戲劇藝術1993-1

西廂記的喜劇效果 蔣星煜 戲劇藝術1993-1

西廂記的喜劇效果 蔣星煜 戲劇藝術1993-1

西廂記的喜劇效果 蔣星煜 戲劇藝術1993-1

(7) 言語

- 西廂記語言藝術三題 李大珂 安徽戲劇1979-3  
談西廂記的語言藝術 徐應佩/周浴泉 陝西戲劇1980-2  
西廂記語言運用的技巧 宋綿有 南開大學學報1980-4  
西廂記語言札記 張燕瑾 古典文學論叢3 陝西人民出版社 1982  
江山各有才人出、各領風騷數百年——論西廂記的文采 劉靖安 湘潭師專學報1982-3  
西廂記中的內蒙河套方言 常虹 文學遺產1982-4  
談劉龍田本西廂記的韻白 單乃真 鞍山師專學報1983  
西廂記曲辭中的詩詞典故的運用 許榮生 青海師專學報1983  
妙筆傳情、天下奪魁——淺談西廂記中詩歌的作用 別廷峰 承德師專學報1983-3  
西廂記曲辭中的修辭範例 王宏偉 青海師院學報1984-1  
試論西廂記對前人名劇的妙用 孫龍驤 青島師專學報1984-1  
西廂記的語言藝術 吳功正 新劇作1984-2  
論西廂寫景狀物的語言藝術 張粵民/袁啓明 湖南師專學報1984-3  
西廂記語言的藝術魅力 王良惠 佳木斯師專學報1984-3  
同是寫送別、語言各千秋——長亭送別與元帝送妃賞析 韓軍 天津師專學報1984-3  
西廂記·長亭送別折曲辭意境 李萍 語文教學與研究1984-4  
充滿風趣的戲曲語言——略論西廂記紅娘的語言藝術 袁啓明等 戲劇叢刊1985-2  
竟似古人尋找——西廂廣引成句入曲的語言藝術 袁啓明 名作欣賞1985-2  
西廂記方言十三解 趙曉茂 河北師範大學學報1985-4  
西廂記語言的動作性 朱桓夫 戲劇1986-4  
西廂記語言藝術簡論 陳玉蘭 西北民族學院學報1987-2  
西廂記第一折如何示鶯鶯之美 蔣星煜 名作欣賞1988-2

『西廂記』研究的回顧と展望

談談西廂記中韻文的繼承發展 蔡運長 民族藝林1988-3  
西廂記雙關語研究——以藥名入曲的(小桃紅)

就西廂記中方言注釋與王季思先生商榷 蔣星煜 河北師院學報1990-1  
刑文英/趙小茂 河北大學學報1991-3

(8) 改編と演出

- 論西廂記及其改編 林涵表 戲曲研究1957-1  
對「論西廂記及其改編」的意見 碧波 戲曲研究1958-1  
從田漢西廂記的改編談鶯鶯性格及其結尾處理 俞琳 戲劇研究1959-5  
雜劇西廂記的南戲化——西廂物語演變のゆくえ 田中謙二 東方學報(京都) 36 1964  
談西廂記的小說·戲曲·電影 魯稚子 書評書日79 1979.11  
談西廂記中的一段唱(附:曲譜) 張君秋 人民戲劇1980-1  
典雅清麗的詩劇西廂記——記袁雪芬扮演崔鶯鶯 章力揮/高義龍 戲曲研究7 1982.12  
田漢改編西廂記的成就 馬焯榮 戲曲研究7 1982.12  
談崑曲西廂記的改編 畢丁 戲曲研究1983-2  
賦古以新、寓奇於平——喜看崑曲新本西廂記 時戈 戲劇界1983-2  
試論田西廂的得失 張粵民/袁啓明 戲劇學刊1983-2  
幽蘭一枝益清芬——評新編崑曲西廂記 史秉 戲曲研究1983-2  
改編西廂記的設想與實踐 馬少波 文藝研究1983-2  
崑曲西廂記的新意 宋大聲 北京藝術1983-4  
成如容易卻艱辛——漫談西廂記崑劇本的改編 沈玉成 戲劇報1983-4  
崑聲初奏北西廂 傅雪漪 戲劇報1983-6  
評新編西廂記後傳及其演出 黎輝 河南戲劇1983-6  
改善與出新——談馬少波改編的西廂記 王季思 劇本1983-10  
西廂記與春秋經 愈爲民 江蘇戲劇1983-10

中國文學論集 第三十號

- 田漢同志與京劇西廂記 君秋 戲劇電影報1983-12  
演西廂、改西廂 閻立品文／閻立仁整理 戲曲藝術1984-2  
紅娘演出一千場後記 宋長榮 戲劇報1984-6  
袁雪芬在西廂記中的長短句唱腔 李梅六 戲劇報1984-7  
我演唱紅娘——兼談民族唱法的我見 常香玉 音樂藝術1985-1  
北崑西廂記邊緣談 蔣星煜 中華戲曲1986  
談馬少波西廂記的改編與排練與實踐 傅雪漪 戲劇叢刊1988-5  
論崔張故事的再創造——兼評大陸和港台的三個改編本  
許翼心／王小雷 河北師院學報1990-2  
田漢改編西廂記始末(上)(下) 黎之彥 中國戲劇1991-1, 1991-2  
金玉其外的越劇改編本西廂記 蔣星煜 上海戲劇1994-2  
并非金玉其外亦非敗絮其中——談越劇西廂記並與蔣星煜先生商榷  
方同德 中國戲劇1994-8  
明清時代における西廂記の上演とその脚本  
黃冬柏 九州中國學會報37 1999-5  
從西廂記到紅娘 周傳家 戲曲藝術2000-3
- (6) 箋注と考証  
西廂記齣目考 羅錦堂 大陸雜誌17-1 1958-7  
第四次西廂記校改本補記 王季思 安徽大學學報1978-2  
從佛教文獻論證「南海水月觀音現」——明刊本西廂記偶拾之二  
蔣星煜 中國古典文學研究論叢1980-1  
王實甫作西廂的年代 董每戡 戲劇論叢1981-2  
西廂記六字三韻語誤引辨證 張人和 文學遺產1982-1  
西廂記稱崔氏春秋非自程巨源始 張人和 社會科學戰綫1982-1  
且說「棄擲今何道」——西廂記探微 李協軍 昆明師院學報1982-2  
也談「棄擲今何道」 于德馨 昆明師院學報1982-4  
集評校注西廂記前記 王季思 戲曲研究7 1982-12
- 評王季思先生的西廂記注釋 王學奇 語文研究1983-1  
西廂記故事溯源小議——讀世說新語札記 馬寶農／郭孝儒 山西師院學報1983-2  
西廂曲論辨誤 張人和 東北師大學報1983-4  
崔鶯鶯、鄭恆新證 李鐵城 河南戲劇1983-4  
也談西廂記的注釋 彌松頤／張燕瑾 文學遺產1983-4  
西廂記帶姓之由來 蔣星煜 戲曲研究1983-6  
「顛不刺」為美玉·美女考——讀明刊西廂記偶拾之二  
蔣星煜 揚州師院學報1984-4  
西廂記新注注釋商榷 王萬莊 文學遺產1984-4  
西廂記稱春秋考 蔣星煜 晉陽學刊1984-5  
再評王季思先生的西廂記注釋 王學奇 天津教育學院學報1985-2  
西廂記異文四考 蔣星煜 中華史論叢1985-3  
明刊西廂記插圖與作者雜錄 蔣星煜 戲曲研究16 1985-9  
西廂記王注獻疑 呂鴻運 廣西師範大學學報1988-1  
莫把「紅娘」作「你娘」 蔣星煜 山西師大學報1988-1  
西廂記之西廂考 蔣星煜 中華戲曲5 1988-1  
論西廂記的評點系統 譚帆 戲劇藝術1988-3  
田中謙二對元雜劇的翻譯注釋與研究 蔣星煜 河北學刊1989-1  
老夫人閉春院考釋 蔣星煜 河北師院學報1989-2  
徐文長西廂記題辭真偽辨 張新建 南京大學學報1989-4  
王實甫因何用明月三五夜其詩而略其題 蔣星煜 河北師院學報1990-2  
西廂記箋注解証本 傅曉航 戲曲研究5 1990-12  
明月三五夜題解 蔣星煜 文史知識1991-2  
西廂記中「大」讀「墮」音考 王雪樵 文獻50 1991-10  
西廂記三考 蔣星煜 河北師院學報1993-3  
西廂記文獻與西廂記研究 蔣星煜 河北師院學報1994-4